

2004 年度第四回韓国言語文化研修に参加して

丹生山 芳子¹

信州大学と韓国カトリック大学は、2001 年 10 月に交流協定を結んでから現在まで教員の学術交流、交換留学生の派遣、受入れ及び教員と学生による言語文化研修が行われてきた。しかしながら事務職員の交流実績はなく、今回初めて事務職員も参加させていただき、交流を行うことになった。

韓国カトリック大学の国際交流処のスタッフは、国際交流処長様以下 3 名で組織されている。国際交流処の主たる業務は、信州大学を例とすれば、研究協力課、留学生課、人文学部学務係の業務のうち、国際交流に関係する部分をすべて行っていると考えられる。海外からカトリック大学へ受け入れる者のプログラムや海外へ派遣する者のプログラムについては、すべて国際交流処で行っている。今回我々が参加した韓国言語文化研修も国際交流処が担当している。そのため、国際交流処の Kwon 課長様が大学内及びソウル市内の案内をしてくださった。私が見学させていただいた大学内の施設で特に目を引いた場所は、図書館の 24 時間使用できる学習室やパソコン室及び公務員等を目指す成績優秀者専用の部屋である。学生寮は 4 人部屋で、部屋の両側には二段ベッドがあり、その両側に個人の机と収納棚が設置されていたが、建物の天井が高いので狭苦しい感じはしない。大学の敷地内にコンサートホールと教会もあり、環境的にたいへん恵まれていると感じた。

カトリック大学の留学生は 30 名位で、一般の留学生についての事務を担当する部署はない。海外からカトリック大学へ受け入れる者のプログラムである交換留学生は、国際交流処が担当し、現在受け入れている交換留学生は 10 名であり、日本人 8 名、中国人 2 名となっている。交換留学生の履修指導も国際交流処で行い、最初は韓国語と韓国文化を学ばせるそうだ。Kwon 課長様のお取り計らいで、直接交換留学生の受入れと派遣を担当している職員の方とお話させていただくことができた。国際交流処の職員の方は、語学力があり国際交流のプロとしての誇りを持っておられ、また、日本語を習い始めた方もいらっしやった。

¹ 信州大学人文学部学務係主任。

今回の研修には、「韓国民俗村」で各地方の伝統的家屋、工芸、食べ物及び結婚式等を見学体験できる企画があった。国際交流処のKwon 課長様に案内していただいたソウル市内では、世界文化遺産の昌徳宮、伝統工芸品が並ぶ仁寺洞等を見学し、韓国の歴史と文化の一端に触れることができた。

「韓国のカトリック大学」は今まで一つの大学名にしかすぎなかったが、今回の研修により実体化し、今後交換留学生としての派遣を希望する学生さんに、カトリック大学について説明することができる。送り出した学生さんが修学上のことで何か困ったことがあれば国際交流処の職員の方が親切に相談に乗っていただける上、2名の日本人の先生がいらっしゃるのとても心強く感じられることと思う。カトリック大学の先生方は日本への留学経験がおありで、日本人と日本文化に熟知しておられ、日本人学生のよき理解者になってくださるであろう。そして、カトリック大学の学生さんは、きっと良い友達になってくれることだろう。そんなことから安心して学生を送り出すことができるのだ。

今回の研修には、人文学部学務係の留学生関係業務の担当であったため、参加させていただくことができたが、国際交流担当と言えるほどの語学力がなく、語学力を身につける必要性を痛感した。カトリック大学の日本語日本文化学科との交流であったため、日本語のみでコミュニケーションをとることができたが、国際交流処の職員の方々との交流は、カトリック大学の学生さんの通訳で行われた。語学力があったならもう少し込み入った話題も話すことができたのではないかと思うととても残念である。また、交換留学生であったカトリック大学の学生さんには案内や通訳を引き受けていただき、卒業した学生さんもわざわざ私たちのために集まってくださった。彼らとは信州大学在学中は、話をする機会が少なかったもので、とてもうれしく感激した。学生関係業務を担当する者として、学生さんとのふれあいをもっと大切にしていきたいと思った。

最後に、今回の研修に参加した両大学の学生さんには、お互いの国の文化を学び、理解と親睦を深め、両国の友好の掛け橋として御活躍されることを祈念します。そして、大成功をおさめた今回の研修の企画、運営、実行に携われたカトリック大学の皆様に感謝の気持ちをお伝えするとともにお礼を申し上げます。今回の研修により得た貴重な体験及び知識を今後の職務に活かしていきたいと思っております。研修に参加させていただきありがとうございました。